



第3回国連防災世界会議パブリックフォーラム 震災と宗教者の役割

主催：東北大学大学院文学研究科実践宗教学寄附講座



2015年3月17日（火）13:30～15:40 会場：東北大学川内北キャンパス C棟2階 C201教室

プログラム

1. 趣旨説明
2. 講演 1：金田諦応（曹洞宗通大寺） 「カフェ・デ・モンクの活動について」
講演 2：谷山洋三（東北大学） 「臨床宗教師の意義について」
3. パネル報告：公共空間における宗教者の役割について
報告者：細谷朋子（オタワ愛徳修道女会） 「カリタス石巻ベースの活動から」
遠山玄秀（日蓮宗） 「チームビハーラの活動から」
田中至道（浄土真宗本願寺派） 「沼口医院での臨床宗教師としての活動から」
コメント：篠原鋭一（曹洞宗長寿院）
司会 高橋原（東北大学）

※同時通訳なし 配布資料（日本語・英語）

企画の趣旨

東日本大震災を機に、2012年4月に東北大学に設置された実践宗教学寄附講座では、公共空間で心のケアを行なうことができる宗教者（＝臨床宗教師）の養成を目的とする臨床宗教師研修を実施してきました。現在までに6回の研修を行ない、のべ95名の宗教者の方々が修了証を受け取りました。

このフォーラムでは、東日本大震災において宗教者が果たした役割をあらためて振り返るとともに、被災地で始まった「臨床宗教師」がどのような現場に活動を広げているのかを紹介し、震災という契機に直面した宗教者が、今後、それぞれの現場でどのような役割を果たしていくことができるのか、可能性と課題を問い直します。

問い合わせ先：東北大学大学院文学研究科実践宗教学寄附講座

TEL/FAX：022-795-3831 Email: j-shukyo@g-mail.tohoku-university.jp



登壇者プロフィール



金田諦応（かねた・たいおう） 曹洞宗通大寺住職、移動式傾聴喫茶カフェ・デ・モンク主宰

1956年生まれ。駒澤大学仏教学部卒業。同大学院修士課程修了。東北大学実践宗教学寄附講座運営委員会委員長。

臨床宗教師研修では、講義と傾聴実習において東日本大震災の経験を踏まえて、宗教者としての覚悟と心構えを受講者に伝えてきた。

谷山洋三（たにやま・ようそう）東北大学大学院文学研究科実践宗教学寄附講座准教授

1972年生まれ。東北大学文学部哲学科（印度学仏教史専攻）卒業。同大学院博士課程修了。博士（文学）。長岡西病院ビハール病棟ビハール僧、四天王寺大学、聖トマス大学、上智大学グリーンケア研究所等を経て、2012年より現職。

2012年から臨床宗教師研修のプログラム開発に取り組み、臨床宗教師研修では講義、実習、グループワークの指導を行ってきた。著書に『スピリチュアルケアを語る』（共著、関西学院大学出版会）、『仏教とスピリチュアルケア』（編著、東方出版）等。



パネル報告：公共空間における宗教者の役割について



細谷朋子（ほそや・ともこ）

カトリック修道女（オタワ愛徳修道女会）臨床宗教師研修6期生。

1961年生まれ。1997年オタワ愛徳修道女会入会。カトリック幼稚園勤務後2011年4月より東日本大震災支援活動に関わる。2013年4月よりカリタス石巻ベース（ボランティアベース）でスタッフとして活動中。震災から4年たち「心と心の関わり」を求めて自分の居場所を探している方が増えている。震災に対する思いや日常の悩みを抱えている方々と関わりながらともに歩んでいる。お互いの価値観を認め合い「人間の思いをはるかにこえた方の存在」を静かに伝えながらこれからも寄り添っていききたいと思う。



遠山玄秀（とおやま・げんしゅう）

日蓮宗上行寺副住職、臨床宗教師研修3期生、一般社団法人終活カウンセラー協会理事、チームビハール代表、グリーンサポートパティ

1977年生まれ、現在37歳。千葉大学理学部化学学科、立正大学仏教学部宗学科を経て僧侶に。

「葬式仏教」と呼ばれる中、お葬式を通じて多くの人のいのちに向き合い、いのちに寄り添う大切さに気付く。現在では、「供養」と共に、自分の終焉を考えることによって、今をより良く生きる「終活」、大切な方を亡くされた方の心のサポートである「グリーンサポート」、生きている人に宗教者としてどう寄り添うかという「臨床宗教師」、宗教者だけではなく、多職種でどういのちをサポートするかという「チームビハール」と様々な活動を通じていのちに寄り添う。



田中至道（たなか・しどう）

浄土真宗本願寺派浄慶寺衆徒、臨床宗教師研修第5期生。医療法人徳養会沼口医院臨床宗教師。

1988年4月生まれ。26歳。岐阜県岐阜市出身。龍谷大学大学院 実践真宗学研究科修了。

2014年4月より沼口医院(岐阜県大垣市)に臨床宗教師として採用される。当院は特に在宅医療に力を入れており、在宅医療チームの一スタッフとして患者の心のケアにあたっている。訪問先は、終末期患者や慢性疾患患者などである。超高齢多死社会に対応する為、多職種による医療関係者との協働活動に日々取り組んでいる。



コメンテーター

篠原鋭一（しのはら・えいいち）

曹洞宗長寿院住職、NPO法人自殺防止ネットワーク「風」理事長。1944年兵庫県豊岡市生まれ。駒澤大学仏教学部卒業。曹洞宗人権啓発相談員、同宗千葉県宗務所所長を歴任。できることからボランティア会代表。

司会

高橋原（たかはし・はら）

東北大学大学院文学研究科実践宗教学寄附講座准教授
1969年生まれ。

